

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や里の自然を体験し、楽しみながら学ぶことができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里の自然を、散策しながら楽しめます。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実ります。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

茅などの草が暮らしの必需品であった時代には、各地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、人の手で維持されていた動植物が豊かな草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、ナデシコ、キキョウ、オミナエシなど、草原の野草を地元のタネから育てています。野草が彩る広大な草原には、ヒバリやチョウ等、草原の生き物も増えてきました。

みちのくの馬文化が育んだ半自然草原の再生に取り組んでいる放牧区では、ヤギ、ヒツジを飼育し、ふれあい体験ができます。羊毛は手仕事体験に利用しています。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育てています。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散策が楽しめます。



.....：春の花野探勝おすすめコース(2,000m)

.....：山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)

▲：見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行けます。展望野草園から里山地区小野分校まで、約 1.9 kmです。



～体験施設～

自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。随時、自然再生や農園活動、手仕事活動のボランティアさんを募集しています。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター

電話 0224-84-5991（代表）

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松 53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

サウギキョウ（位置B）

湿地に生えるキキョウ科の多年草です。花は鳥のような形で、マルハナバチが触れると花粉がこぼれ出て背中につきます。ハチや蝶が訪花しますが、有毒植物です。



エゾミソハギ（位置B）

湿地に生えるミソハギ科の多年草です。盆花に利用するため、昔は水田の片隅で育てることもありました。この花に水を含ませてお供物にまき、禊を行う風習があります。



コカモメヅル（位置A）

湿地にはえるカモメヅルの仲間で、小さな花を咲かせます。各地で絶滅に瀕しています。



今日はここを観てみよう！

■ヤギとヒツジの違い

ヤギ

- 普段は「メェ」と小声で鳴きます
- 角は個体によってあったり、なかったりで、危険防止のために切ることもあります
- 短いしっぽがあります
- アゴヒゲがあり、垂れ下がったひだがある個体もいます
- 好奇心が旺盛です。



ヒツジ

- 「ベェー」と大きな声で鳴きます
- 角は品種によってあったり、なかったり
- 長いしっぽがありますが、汚れ防止のために生まれてすぐに切ることが多いです
- ふわふわの毛は自然に抜けないので、毎年毛刈りをする必要があります
- 怖がり、群れを好みます



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

オミナエシ（位置D・E・F）

万葉集や源氏物語にも登場する秋の七草の一種です。かつては川崎町でも盆花として街に売りに出すほど生えていましたが、今では絶滅寸前です。そのタネを譲り受け、この草原で増殖して保全しています。



イヌハギ（位置C・E）

乾いた草原に生えるマメ科植物で、白い花を咲かせます。釜房ダムの浚渫土から芽生えた個体です。環境省の絶滅危惧Ⅱ類、宮城県の準絶滅危惧種です。



ヒメシオン（位置F）

やや湿った草原にはえます。ヒメシオンも草原の消失等で各地で絶滅に瀕しています。名前が似たヒメシヨオンは外来種です。



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

イブキボウフウ（位置D・E）

セリ科の多年草ですが、一度開花結実すると枯れてしまいます。蕾をキアゲハの幼虫が食べてしまい、開花結実できずに一生を終えてしまうこともあります。



コバギボウシ（位置B・C・G）

やや湿った草原や明るい林に生えます。花穂の花は下から咲きはじめ、それぞれの花は1日でしぼんでしまいます。写真はクマバチが盗蜜しているところです。



ツリガネニンジン（位置D・E）

キキョウ科の多年草で、草原に生えます。釣鐘のような涼しげな花と、根が太く朝鮮人参に似ていることから、この名があります。若葉はトクキと呼ばれる山菜です。



今日はここを観てみよう！

■雑木林に咲く花

キツネノカミソリ（位置I・G）

春に葉が出て6月に地上部が枯れた後、8月に花だけ地面から出てきます。同じ仲間で帰化植物のヒガンバナは、開花の後に葉を出します。葉の形が剃刀に似ていることから、この名があります。



ヤマジノホトトギス（位置G）

ユリ科の多年草で、樹林に生えます。雄しべの下向きの葯は、訪花したマルハナバチの背中に花粉をつけます。



フシグロセンノウ（位置C・H）

ナデシコ科の多年草で、樹林や林縁に生えます。茎の節が紫褐色になることから、この名前があります。立秋の頃、緑深い森の中で、点々と鮮やかな花を咲かせます。

